

会 議 要 旨

会議の名称	令和元年度第2回川越市社会福祉審議会地域福祉専門分科会
開催日時	令和元年8月27日（火）14時から15時40分まで
開催場所	川越市総合福祉センターオアシス 3階 社会適応訓練室
出席者（委員） 氏名（人数）	樋口委員、高橋委員、小野澤委員、岡田委員、荻野委員、原島委員、木内委員、佐藤委員、野村委員、芝波田委員、岡庭委員、本郷委員、原委員、村上委員、柴田委員、島田委員、田中委員（17名）
欠席者（委員） 氏名（人数）	藤倉委員（1名）
事務局職員 職 氏 名	市：福祉部副部長兼福祉推進課長、福祉推進課職員 社協：事務局長、地域福祉課長、地域福祉課職員
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「みんなで作る福祉のまち川越プラン」の中間評価について (2) 地区別福祉プランの中間評価について 4 その他 5 閉会
配布資料	資料1 みんなで作る福祉のまち川越プラン中間評価シート 資料2 地区別福祉プラン 中間評価シート（案）

議 事 の 経 過

事務局	<p>1 開会 会議の公開についての承認</p> <p>2 挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 過半数の委員出席による会議の成立の報告 ● 佐藤会長挨拶
事務局	<p>3 議題</p> <p>(1)「みんなでつくる福祉のまち川越プラン」の中間評価について ○資料1に基づき、事務局より説明。</p> <p>(質疑、意見等)</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会福祉法の改正に基づいて、次期計画をどのように進めていくのか。厚生労働省で予算化されている包括的な支援体制の整備事業や包括化推進員の配置、地域の課題を地域で解決していく地域力強化事業の整合性を図ることが、今後自治体に求められる。 <p>地域計画が上位計画に位置付けられ、個別の計画では担いきれない地域との関わりの部分を次期計画では載せていく必要がある。また、他の計画と整合性を図るため、計画期間を6年にし、3年ごとに全体を整えて中間評価を行い、理念的な計画ではなくPDCAサイクルにのせた実効性のあるものにしていかねばならない。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● P3 ボランティア体験プログラムの充実とあり、申込者の多い学校には出前講座を検討とあるが、申込の少ない学校への取組も必要かと思われる。なぜ、申込が多い学校と少ない学校があるのかという分析と、申込者が少ない学校には働きかけを行うなどして標準化を図ることが必要ではないか。
事務局	<p>⇒全学校にボランティアプログラムの案内は出しているが、各学校のカリキュラムの問題もあるため、出前講座をやるとなると、どうしても積極的な参加意思のあるところというのが現状である。少ないところに関しては、今後分析を進めていきたいと思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本方針5のうち既に達成している指標について、修正を行うことは考えているのか。
事務局	<p>⇒計画期間5年のうち4年と5か月が過ぎていることもあり、修</p>

	<p>正は行わない。指標や目標は、達成したから終わりではないので、次期計画策定のために今後の方向性を検討し、今回の中間評価を行った。</p>
<p>議長 事務局</p>	<p>●次期計画では、量的な評価と共に、質的な評価も深めていき、3年ごとに目標の修正を検討できるのが望ましい。 ⇒次期計画で検討していく。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>●CSWを全地区に配置し成果をだしているが、単純にCSW1人に対し、5～6万人の人口を担当していることになる。色々な計画の中でCSWへの重圧が感じられるので、全地区配置されたことで、どんな課題があるのか紹介してほしい。なぜなら、CSWは第2層、第3層の中で活動しつつ、第1層とのネットワークとのつなぎ役も務めなければならない。また第2層、第3層の中では個別の支援をしつつも各地域ごとの活動の充実等同時に進めていかなければならないと思われるからである。 ⇒30年度は6人体制、今年度は8名体制、今後9名体制を目指し配置を進めているところである。一人当たりの担当地区数や地区によって人口も異なるのと、地域包括ケアシステムの生活支援コーディネーターも兼務しているため、担当者が受け持つ範囲は課題になっている。どのぐらいのエリアを一人で受け持つことが適正なのかは、課題の多い地区や住民の方の協力体制がしっかりしている地区等ばらつきがあるので、難しいところであるが、適正な配置を進めていければと考えている。</p>
<p>議長 事務局</p>	<p>●相談が伸びていないが、実働部分がみえていないことに関してはどうか。 ⇒4つの拠点を設けての実施、電話による相談という形をとっているが、拠点にきて相談するという案件は実際には少ないが、地区担当者が民生委員の定例会等に毎月1回程度必ず出席し、その中で情報を得て一緒に訪問等をしたりと、実際に対応しているというケースは増えている。窓口に来た件数だけを報告しているところもあるため数字の表し方がうまくできていない。</p>
<p>委員</p>	<p>●重点施策2では行政側は第1層とし、全域に総合相談窓口を検討しているが、CSWの活動の充実と連携体制については、行政の総合相談窓口を検討する際に、CSWとのつながりをもって次期計画には盛り込まれていくとよいと思う。</p>

議長	<p>●CSWは第2層の生活支援コーディネーターを兼ねて行っていくということなので、第1層部分と整合性を合わせていくのか、それとも包括的な相談を総合相談窓口で行うのか等、何らかの区分で中間圏域の部分も見ていかないと、22地区あるのでこぼれ落ちてしまう。地域力強化と地域支援のつながりをつくっていくことがシステムとして求められており、サポートシステムとして形はあるが、実効性のあるものに変えていくことが求められていく。障害は圏域が広がるので、どうカバーし充実させていくか根拠をもとに検討できるよう具体的な数字を表してもらいたい。</p>
委員	<p>●中間の評価シートの基本方針3で「地域組織、団体等の連携による事業の推進」、基本方針4で「NPO活動との連携」で着手していないとあるが、理由があるのか確認したい。</p>
事務局	<p>⇒NPO法人と関わりがないわけではないが、事業の連携という形では具体的な検討はされていない。ただ、今年度社会福祉法人の地域貢献活動について調査をし、現在取りまとめ中である。アンケートには「地域貢献活動は何をやったらいいのか」「社協に研修会を開いてほしい」「他の法人がどんな活動をしているのか情報が欲しい」という意見があった。NPO法人も社会福祉法人も地域貢献活動について模索中であることが見えたため、どんな地域活動ができるか等、今年度中に検討会を2回程度行いたいと考えている。社協ではさまざまな団体の事務局をしているが、その団体同士の具体的な連携をとるところまでは至っていないのが現状である。課題等は見えてきているので、どんな形で計画に関わっていくのか検討できればと思っている。</p>
議長	<p>●社会福祉協議会のボランティアセンターは市民活動センターのようなNPOの機能は入っていないのか。</p>
事務局	<p>⇒機能としてはないが、必要に応じて連携している。</p>
議長	<p>●ボランティアセンターにそのような機能を持たせている市町村もある。そうすると、社会福祉協議会だけではなく、行政でNPOを所管するような部署の確認をし、整合性を図るのが望ましい。</p>
事務局	<p>⇒確認し、今後検討を進める。</p>
委員	<p>●バリアフリーマップ、ハザードマップについて、こういったマップがよいかイメージがあれば教えてほしい。</p>

事務局	⇒地区によって見守りマップの他に、防災や危険個所を書き込んでいるものもある。マップ作りに関し、決まり事もなく予算化もされていないため、あまり進まなかったので、今後見直しを含め検討しなければならない。
委員	●行政でつくるハザードマップ等も、地域の方の声を拾い上げた地域福祉に係るマップも、1つに落とし込んだ方がいい。
議長	●行政と社協が整合性を図り、進めていかなければならない。
委員	●資料1の今後の方向性の定義をどのように行っているのか。方向性と具体的な内容の整合性が分かりにくい。充実と評価している箇所、見直しと書いても通じてしまう。他の計画では評価を点数化していたりするが、評価の基準が曖昧なため、恣意的な評価になっているのではないか。
事務局	⇒現行の計画は進行管理がしにくくなっており、次の計画ではPDCAサイクルができるよう検討する。
委員	●基礎調査は定性的なアンケートであっても、定量的にもとめる必要がある。次期計画では、事業を充実させることで成果目標が達成できるよう整合性を図っていただきたい。
議長	●量的に評価できるものと、質的に見ていかなければいけないものの、評価をするものの尺度設定が大事である。策定委員会とは別に評価委員会を設けている市町村もある。従来の理念的なものから、どう現実的に達成するのか、実効性のあるものにしていかなければいけない。他の個別計画と重なる箇所も出てくるので、誰がどのようにして実効性のあるものにしていくか、整理が必要である。
委員	●今後、他計画との連携と関連づけて評価しなければいけない部分を精査していく中で、成果物としての検証も必要なのではないか。例えばCSWは介護保険事業計画の圏域とあわせ、9人の配置目標を掲げている。強く結びついていることから、地域ケア会議の第2層に参画をしていくなどの手法も検討していただきたい。介護保険事業だけでケアマネジメントしても、問題解決には至らない。CSWを含め福祉課題の視点から関わっていかなければならない。地域ケア会議、地域包括支援センターにアウトリーチ志向で出向き、課題抽出と地域づくりを行いなが

<p>議長</p>	<p>らベースを作っていくのは有効だと考える。 地域共生社会に向けた包括的支援の多様な参画指針の中間マップなども出てきている。次期計画の評価の参考していただきたい。</p> <p>●介護保険事業計画の方が支援をするための予算がついている。抱擁的に支援していく中で、高齢分野以外にも活かしていければいい。</p>
<p>委員</p>	<p>●私の所属する組織では、児童、障害、高齢分野と包括的に支援しているが、その中でも連携の評価はとても難しいと考えている。会議を開いた回数などで連携の評価をされがちだが、何を持って連携というのか。それぞれの組織に役割と限界があるため、どこだったら、どうやったら、協力できるのかを検討する。縦割りでバラバラな状況でも、私たちが一時的なハブになって発信し役割をお願いしていくと今の仕組みでも複合課題に対応できている。そのハブを行うことが重要で、工夫が必要である。これがないと、組織を作って会議や事業を行っても、活かせるのか不安である。</p>
<p>委員</p>	<p>●大震災が起こった時、障害者や高齢者の方が最終的に避難する先は、他県などのかなり離れた地域になることもあると思う。川越市で本当に困ったことが起きた時、どこにどのようなルートで避難するのか、全体が連携しないといけないという印象を受ける。</p>
<p>議長</p>	<p>●国は、ハブになるのは包括化推進員だと考えている。川越市ではCSWが担うべき役割だと認識している。</p>
<p>委員</p>	<p>●地域包括支援センターが今後力を入れなければいけないと考えているのが、地域分析である。センターには平均で1日3件、月にすると60件の新規相談があり、新規と継続の相談の対応だけで日々大変な状況にある。これは受け身的な活動であり、自分たちの住んでいる地域のどこにどのような問題があるのか先に認識していれば対策がしやすくなると思う。</p> <p>計画でも同じことがいえ、連携や相談支援体制が地域の現状と課題を把握した上での具体的な内容になっていないため、違和感がある。</p> <p>地域にある問題から、どうみんなが連携していくのか。流れは</p>

議長	<p>できてきていると思う。そのような点を含めて次期計画では、地区別福祉プランの根拠にもなる地域分析に力を入れて欲しい。</p> <p>●次期計画では、地区懇談会から地域ニーズを明らかにし、地域ケア会議にみられる多問題から、地域全体をどう支えていくかを全市的、地区ごとに検討していかなければならない。</p> <p>(2)地区別福祉プランの中間評価について ○資料2に基づき、事務局より説明。</p> <p>(質疑、意見等)</p>
委員	<p>●地区社協の件であるが、月日が経つにつれ計画の認識が薄れている。もう一度エリアミーティングを開くのがよいと思う。</p>
事務局	<p>⇒エリアミーティングもしくは福祉懇談会に出向かせていただきたい。</p>
事務局	<p>⇒地域に戻してもう一度地域で話してもらう必要がある。地区を担当するCSWがいるので、かつての流れをもう一度説明し評価をしてもらいたいと思う。</p>
委員	<p>●ごみゼロ運動の項目をみると年度によって評価が異なる。3年まとめたの記載に無理があると思われるので、各年度ごとに評価をしてまとめたほうがわかりやすいと思う。評価が下がった場合なぜ下がったのか疑問を感じる。</p>
事務局	<p>⇒年度ごと評価してもらっているシートが別にある。評価してもらっている方の主観によって変わってしまうことも現状としてある。評価も大事であるが、特に内容として活動がどう変わったのか等具体的に記載するかたちにする。</p>
議長	<p>●地区別福祉プランについての中間評価は住民の評価になるが、市の全体の評価を見ていく上ではさまざまな意見を反映させていきたいと思う。住民に地域のことを考える機会となるので、実施してもらいたい。</p> <p>4 その他 次回の分科会は10月8日(火)の同じ時間と場所で行う予定</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">〔16時10分終了〕</p>